

#### 目次

第21回研究発表大会のお知らせ	1p
第21回研究発表大会プログラム概要	2p
第21回研究発表大会プログラム	3p
IT理事会報告	10p
委員会報告	10p
分科会報告	10p

支部報告	11p
学会後援・協賛行事などのお知らせ	12p
事務局からのお知らせ	13p

#### 第 21 回 (2012 年度) 研究発表大会のお知らせ

第 21 回地理情報システム学会研究発表大会は、2012 年 10 月 13・14 日（土・日），広島修道大学にて開催されます。本年度も通常の研究発表（講演，ポスターセッション）に加え，国際シンポジウムや特別セッションなど，多彩な企画を予定しております。講演は 152 本，ポスターは 34 本と，昨年同様の大規模な大会です。皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

研究発表大会の詳しい内容につきましては，後述のプログラムをご覧下さい。但し，掲載されておりますプログラムは 8 月上旬現在のものであり，学会当日までに変更される可能性があります。最新のプログラムにつきましては，学会ホームページ及び当日の大会会場における掲示をご覧下さい。

**日時** 2012 年 10 月 13 日・14 日（土・日）

- 受付開始時間は，1 日目が午前 8 時 30 分，2 日目が午前 9 時 00 分です。初日朝は，受付が混雑いたしますので，午前中の講演者はお早めにご来場のうえ，受付をお済ませ下さい。
- 各口頭発表の持ち時間は発表 15 分，質疑 5 分です。時間厳守をお願いいたします。また講演者は，セッション開始前に会場にて機器動作確認などの準備をお済ませ下さい。なお，発表用のパソコンは，持参してください。
- ポスターセッションは 2 日間を通じて実施されます。1 日目 12 時 30 分～14 時，2 日目 11 時 30 分～12 時 30 分をコアタイムと致しますので，これらの時間帯の中でそれぞれ 30 分以上，発表会場にて質疑応答にご対応頂きますよう，お願ひ申し上げます。

**場所** 広島修道大学 5・6 号館

〒731-3195 広島県広島市安佐南区大塚東 1-1-1

<http://www.shudo-u.ac.jp/index.html>

**アクセス**

JR 広島駅から・・・

JR 山陽本線 広島～横川（約 3 分）

広電バス（免許センター・五月が丘団地行き） 横川駅前～

修道大学キャンパス（約 19 分）

JR 可部線 広島～大町（約 25 分）

アストラムライン 大町～広域公園前（修道大学前）（約 18 分）

**広島空港から・・・**

広島空港リムジンバス（広島バスセンター行き） 広島空港～中筋駅（約 40 分）

アストラムライン 中筋～広域公園前（修道大学前）（約 21 分）

詳細は <http://www.shudo-u.ac.jp/8a2171000001o13d.html> をご覧下さい。

**懇親会会場** ひろしま国際ホテル

〒730-0032 広島県広島市中区立町 3-13

**大会参加費（講演論文集の CD-ROM 代金を含む）**

正会員または賛助会員枠の参加者 :

事前登録 3,500 円（当日受付 4,000 円）

学生会員 : 事前登録 3,000 円（当日受付 4,000 円）

非会員（一般および大学生以上） :

事前登録 6,000 円（当日受付 6,000 円）

高校生以下，70 歳以上 :

無料（必ず年齢を証明するものをご呈示ください）

懇親会参加費 : 事前登録 5,500 円（当日受付 6,000 円）

・事前登録，当日受付とも，領収書を発行いたします。

**事前登録と昼食（お弁当）の予約について**

事前登録申込書（学会 HP よりダウンロードして下さい）に必要事項をご記入の上，代金を振り込んで学会事務局まで申込書を FAX にてご送信下さい。昼食のみのご注文も可能です（会場校の周囲に飲食店は少なく，構内の食堂も日曜は営業しません）。予約締切は，9 月 15 日（土）です。

※期日までに入金が確認されない場合，事前受付はキャンセルとなります。

※大会当日は，お弁当の注文はできません。

[第21回研究発表大会プログラム概要]

日 時	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D	会場 E	会場 F	ポスター 会場	会場 G	
第一日目 十月十三日 (土)	9:00 - 10:40	特別セッション (1) : 地方自治体における地理空間 情報の新たな活用方法につい て	B-1 土地利用	C-1 防災 (情報 整備)	D-1 データ 作成 (1)	E-1 データ精 度	F-1 歴史・考古 1	ボ ス タ ー   展 示	
	10:40 - 10:50	休憩							
	10:50 - 12:30	特別セッション (2) : マイクロジオデータ の普及と都市・地域分 析での利活用	特別セッション (3) : FOSS4G 日本語ローカ ライズの現状と課題	C-2 防災 (分析)	D-2 データ 作成 (2)	E-2 理論	F-2 歴史・考古 2		
	12:30 - 14:00	昼休み/ ポスターセッションコアタイム							
	14:00 - 15:40	特別セッション (4) : 社会経済データの研究におけ る利活用 1	B-3 国際 シンポジウム 1	C-3 防災 (リス ク評価)	D-3 データ取 得 (1)	E-3 システム 開発 1	F-3 移動デー タ 1		
	15:40 - 15:50	休憩							
	15:50 - 17:30	特別セッション (5) : 社会経済データの研究におけ る利活用 2	B-4 国際 シンポジウム 2	C-4 防災 (防災 計画)	D-4 データ取 得 2	E-4 システム 開発 2	F-4 移動デー タ 2		
	17:30 - 18:30	移動 ※懇親会会場までバスが出ます							
	18:30 - 20:30	懇親会 (会長挨拶, 表彰式等)							

日 時	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D	会場 E	会場 F	ポスター 会場	会場 G	
第二日目 十月十四日 (日)	9:30 - 11:30	特別セッション (6) : 持続安定的な地域の情報基盤 確保に向けて~アカデミック 地域情報サポートーズクラブ	B-5 教育	C-5 防災 (被害 予測)	D-5 地域分析 1	E-5 自然・環境	F-5 居住	ボ ス タ ー   展 示	
	11:30 - 12:30	昼休み/ ポスターセッションコアタイム							
	12:30 - 14:10	特別セッション (7) : 日本学術会議の地理 基礎・歴史基礎必修化 の提言と学校におけ る GIS 教育	特別セッション (8) : 人の流れに関するデ ータ計測、整備、利用 を横断的に考える	C-6 データベ ース構築 1	D-6 地域分析 2	E-6 施設配置 1	F-6 移動行動 分析 1		
	14:10 - 14:20	休憩							
	14:20 - 16:00	特別セッション (9) : 震災時の経験を基にした GIS を用いた行政支援の可能性	B-7 自治体 GIS	C-7 データベ ース構築 2	D-7 可視化	E-7 施設配置 2	F-7 移動行動 分析 2		
	16:00 - 16:20	休憩							
	16:20 - 16:40	閉会式 (優秀発表賞の表彰を含む)							

## 第21回研究発表大会プログラム

GISA大会発表申込書に依る  
(発表者は最初に記載 敬称略)

第1日目:10月13日(土) 会場A

9:00~10:40 特別セッション(1)

地方自治体における地理空間情報の新たな活用方法について  
オーガナイザー:青木和人

自治体GISを取り巻く環境は、府内システムやウェブシステムなどの独自構築という枠を超えてGoogle Mapなどインターネットに依存するGISを活用したものへと変化している。今後自治体GISに求められるものは、重厚長大な施設管理システムの維持だけではなく、誰もが容易に空間情報を操作し、加工し、構築できるシステム環境と、それを実現する人材育成である。さらに構築された優良な行政情報をいかにして地域づくりに生かせるかということである。

本セッションは、自治体GISをリードする者と、これからGISを活用しようとする者とが、「基盤地図」、「空間情報」、「システム」そして「人材」について、自治体GISに内在する課題を洗い出し、提起するためのパネルトークを展開する。

10:50~12:30 特別セッション(2)

マイクロジオデータの普及と利活用

オーガナイザー:秋山佑樹

昨年「マイクロジオデータ研究会」と呼ばれる研究会が発足し、マイクロジオデータの普及と利活用について産官学が共同で議論する場が生まれました。マイクロジオデータとは近年利用可能になりつつある、デジタル住宅地図や電話帳のような空間的精度と網羅性が非常に高いデータや、モバイル統計、GPSログ情報、パーソントリップデータ、Webから収集出来る情報など加工余地が高いミクロスケールの非集計データのことを言います。既存の各種統計データでは実現し得なかった時空間的にきめ細やかな計画・解析等への利活用が期待されています。

本セッションでは昨年に引き続き本研究会の紹介を行うとともに、マイクロジオデータを用いた研究を行っている研究者による研究紹介や、今後マイクロジオデータの利活用が期待される官民の領域の実務者などによる講演が行われる予定です。今年は特にまちづくり・を中心市街地活性化・農村計画・高齢化といった都市・地域研究に関連した研究者や実務者にお集まり頂く予定です。マイクロジオデータ開発と利活用の最先端を知っていただくとともに、研究者同士が持つマイクロジオデータのシーズとニーズを結びつけて活発な議論が交わされることを期待しています。

14:00~15:50 特別セッション(4)

社会経済データの研究における利活用 1

オーガナイザー:貞広 幸雄・貞広 斎子

近年、収入・支出推計やジオデモグラフィクスデータなど、社会経済データの普及が急速に進みつつある。こうしたデータは、マーケティングでの利用を想定したものが多いが、研究上も有用であるものが多くない。そこで本セッションでは、様々な利活用例を通じて、社会経済データの研究面での有用性を評価する。健康・医療、都市計画、教育、経済、建築などの様々な分野の研究事例を報告し、社会経済データの入手、加工、利用などの侧面から評価する。

14:00~15:50 特別セッション(5)

社会経済データの研究における利活用 2

オーガナイザー:貞広 幸雄・貞広 斎子

第1日目:10月13日(土) 会場場 B

9:00~10:40 B-1 土地利用

□Accuracy assessment of land-cover change modeling in a rapidly growing city of Baguio, the Philippines

Estoque Ronald・Murayama Yuji

□20世紀のアジア大都市における土地利用変化と地形条件との関係  
—ソウル・台北・ジャカルタを事例に—

山下 亜紀郎

□Transition probabilities applied to land use changes in the northern metropolitan areas of Japan

Luis Carlos Manrique Ruiz and Kayoko Yamamoto

□Industrial agglomeration in China's agricultural product processing industry

Qian Guixia and Jiang Yong

□エーレスンド橋架橋後の都市圏の変化

山下 潤

10:50~12:30 特別セッション(3)

FOSS4G 日本語ローカライズの現状と課題

オーガナイザー:嘉山 陽一

近年インターネットの世界が拡大することによってオープンソースソフトウェアの開発と普及が加速しています。地理空間情報に関するオープンソースソフトウェア(FOSS4G)に関しても種類の増大や機能の向上が顕著です。これらのFOSS4Gは政府や企業での利用から研究機関や個人での利用まで様々なスケールと目的で使われています。開発や利用促進については国際的なコミュニティによって進められていることが多いです。ただし、これらコミュニティに日本からの参加者は少なく国内でのGIS利用とFOSS4Gの発展の間には少しギャップがあるようです。

QuantumGISについては近年プログラムやドキュメントの日本語が行われたせいか国内での利用例も急激に増加しています。ユーザが増加すればそのソフトウェアの利用方法や問題点の共有も進み、結果としてツールが利用しやすくなるといえます。本セッションではいくつかのFOSS4Gツールや関連する環境のローカライズ状況の事例、方法、課題の発表を行い、それらツールの利用環境を向上させていくための情報交流をパネルディスカッションで行いたい。

14:00~15:40 B-3 國際シンポジウム (1)

□Simulating deforestation trends of Dzalanyama forest reserve in Malawi using a spatial agent model

Kondwani Munthali

□A Grid-based Modeling for Climate Change Impact Assessment on Watershed Hydrology

Seong-Joon Kim, Geun-Ae Park, & Hyuk Jung,

□Extraction of a stream of a river using the satellite images

Yun Jae CHOUNG, Hyen Cheol PARK, & Myung Hee JO  
□モンゴルにおける気候変動適応策に向けたソムスケールの意思決定支援システムの開発  
Akihito Oba, Wanglin Yan, Masataka Watanabe and  
Bolor-Erdene Lkhamsuren  
□ Mapping national terrain/slope stability for disaster prevention using parameterized GIS datasets  
Kon Joon Bhang, Jin-duk Lee, Gyungup Lee, & Changhwan Kim

#### 15:50～17:30 B-3 國際シンポジウム (2)

□The spatial distribution of primary care clinics in an urban city in Korea  
Kwangsoo Lee  
□Physical Environmental Correlates of Walking for commute, exercise/walk, and food purchase  
Seul-gi Lee, Sung-gwan Jung, Kyung-hun Park, Woo-sung Lee, & Jong-wan park  
□ The study of utilization of RIMGIS(River Information Management Geographic Information System) for the efficient management of dynamic changes data in river  
Kyung Jun KIM, Hyun Jung KIM, Hyung Sub KIM, & Myung Hee JO  
□Interactive Online GIS System for Massive Surveyed Person Trip Data Visualization and Space-Time Analysis  
Ko Ko Lwin and Yuji Murayama  
□Comparison of surface temperatures between thermal infrared images and in situ data  
Sookuk Park, Kyunghun Park, Boungeun Song, Taekyung Baek, & Byongwoon Jun

#### 第1日目:10月13日(土) 会場C

##### 9:00～10:40 C-1 防災(情報整備 )

□つくば市竜巻災害対応における地理空間情報の活用と効果  
李 泰榮・田口 仁・須永 洋平・長坂 俊成・坪川 博彰  
□災害時における全住民位置情報の重要性 (その1) ～東日本大震災時の福島県相馬市におけるGISを活用した罹災証明発行システムの事例～  
卯田 強・長谷川 普一  
□災害時における全住民位置情報の重要性 (その2) ～アドレスマッチングに係わる諸問題と解決方策について～  
長谷川 普一・卯田 強  
□東日本大震災復興支援調査アーカイブ構築によるデータ流通促進  
関本 義秀・西澤 明・山田 晴利・柴崎 亮介・熊谷 潤・相良 豪・嘉山 陽一・大伴 真吾  
□震災時における情報入手と伝達方法の特性 ～茨城県つくば市でのアンケート調査を事例として  
王尾 和寿・温井 達也・藤井 さやか

##### 10:50～12:30 C-2 防災(分析)

□2007年新潟県中越沖地震における柏崎市建物被害の空間分析  
長尾 拓真・山崎 文雄  
□Classification of People's Evacuations and Life Patterns after Fukushima Nuclear Accident  
佐山 慶成・宋 軒・張 全世・柴崎 亮介  
□都市内部における津波浸水域の土地利用変化—北海道小樽市を

事例として—

川村 壮・橋本 雄一  
□都市内の樹木群の空間特性と延焼遮断効果との関係  
熊谷 樹一郎・安野 真琴・相本 敬志  
□いわき駅周辺における落書きの空間的分布 一東日本大震災前後の比較一  
吉村 忠晴・川崎 俊郎

##### 14:00～15:40 C-3 防災(リスク分析)

□Spatial Analysis of Terrorism Vulnerability: A Case Study of Tokyo, Japan  
Konstantin Greger  
□大気拡散モデルと GIS を用いた廃棄物焼却炉の環境リスクの評価  
石井 真和・山本 佳世子  
□密集市街地の空間性状と大地震時の避難困難率  
沖 拓弥・大佛 俊泰  
□平日と休日における帰宅困難者数の比較分析  
濱田 時彦・大佛 俊泰  
□災害時での避難プロセスの観点からの都市整備状況の広域分析  
熊谷 樹一郎・畠尾 一貴・高木 孝文

##### 15:50～17:30 C-3 防災(防災計画)

□地方公共団体における自立的な津波ハザードマップ作成のためのPM手法適用に関する一考察  
深田 秀実・橋本 雄一  
□GISを用いた洪水ハザードマップの高度化に関する研究  
月原 雅貴・三谷 泰浩・池見 洋明・村岡 直紀  
□地域防災とGISの利活用に関する研究－事前復興の視点から－  
佐藤 正之・宮入 興一・蒋 淳  
□自助による防災対策の空間的差異の現状と有効な自助向上策の検討  
有馬 昌宏・上野 卓哉・有馬 典孝  
□県域統合型GISにおけるハザードマップ整備ガイドラインの作成  
田口 仁・和田 敏・長坂 俊成

#### 第1日目:10月13日(土) 会場D

##### 9:00～10:40 D-1 データ作成(1)

□空中写真からの建物輪郭形状抽出における欠落エッジ補完方式  
前川 友樹・中條 雅裕・荒木 俊輔・疋崎 賢一  
□建物形状の単純化による建物同定の高速化  
仙石 裕明・秋山 祐樹・池田 健虎・柴崎 亮介  
□新旧住宅地図における建築物の築年数推定  
池田 健虎・秋山 祐樹・仙石 裕明・柴崎 亮介  
□道路形状ポリゴンを用いた、道路幅員ネットワークデータの自動生成  
奥秋 恵子

##### 10:50～12:30 D-2 データ作成(2)

□点群座標データを利用した3次元の道路中心線の整備手法  
今井 龍一・井星 雄貴・佐々木 洋一・岩切 昭義・今西 晓久・小山 裕也  
□MMS点群データの密度に依存しない道路図化情報取得手法  
花田 吏・曾 鑑・荒木 俊輔・疋崎 賢一  
□鉄道沿線設備判読支援ツールの開発

吉川 悟・中山 忠雅・清水 智弘・北岡 栄一・徳田 浩一郎・内田 修  
 □KD-tree を用いた MMS データからの建物壁面の抽出手法  
 曽 鑑・荒木 俊輔・碓崎 賢一

## 14:00~15:40 D-3 データ取得(1)

□太陽光発電日射評価への詳細地理情報の適用と検証  
 中村 元・岸本 直子  
 □高品質 DSM 生成のためのステレオマッチング特性評価システム  
 中條 雅裕・前川 友樹・荒木 俊輔・碓崎 賢一  
 □空中写真の精密オルソ化に対応する電子透かし方式  
 村上 翔・前川 友樹・荒木 俊輔・碓崎 賢一  
 □自動オルソ化に向けた空中写真の新しい高精度測位アルゴリズムの提案  
 米川 雅雅  
 □地理情報科学分野における UAV (無人航空機) の応用可能性とリスク管理に関する一考察  
 泉 岳樹・宇佐美 昌樹

## 16:10~17:50 D-4 データ取得(2)

□屋内環境における位置情報測位技術に関する基礎的検討  
 清水 智弘・吉川 真・田中 一成  
 □タッチデバイスを用いた人手による空間情報の関連付け支援  
 笹尾 知世・木實 新一・藤田 秀之・有川 正俊  
 □参加型センシングによる電車混雑推定手法の提案  
 大野 航・木實 新一  
 □道路網を用いた上下水道管路の延長分布の推定  
 小林 朋美・山崎 文雄  
 □パノラマカメラ搭載 MMS による街路景観評価に関する一考察  
 佐藤 俊明・山本 耕平

## 第1日目:10月13日(土) 会場 E

### 9:00~10:40 E-1 データ精度

□設計図から作成した屋内空間の三次元 GIS データの精度について  
 乙井 康成・神谷 泉・小荒井 衛  
 □異なる大縮尺道路地図の親和性に関する考察  
 佐々木 洋一・今井 龍一・土居原 健・植林 厚・重高 浩一  
 □町丁目単位における将来人口推計手法に関する研究  
 仲宗根 悠馬・秋山 祐樹・仙石 裕明・柴崎 亮介  
 □時間経過による信頼性の変化を考慮した空席情報共有システムの提案  
 少路 健太・木實 新一  
 □新東名自動車道の大縮尺地図を用いたスマートフォン GPS 及び CAN ロガーの走行実験  
 今井 龍一・佐々木 洋一・内田 真一・越智 大介

## 10:50~12:30 E-2 理論

□空間統計モデルを用いた公示地価・都道府県地価調査の評価地点の配置問題  
 Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi  
 □数値標高モデルを用いた特徴点抽出方法の検討  
 善積 竜希・五島 洋行・島川 陽一・三上 喜貴  
 □オブジェクト間の時間関係の遷移パターン  
 太田 守重・倉田 陽平  
 □三次元地図の解析分野等での利用について  
 曽根 敦・神田 学・河原 大・佐藤 俊明

□オブジェクト指向空間解析:空間オブジェクト分布間関係の汎用的解析手法

貞広 幸雄

## 14:00~15:40 E-3 システム開発(1)

□グーグルマップを用いた地図情報共有システムの開発  
 武市 信・渡辺 公次郎・近藤 光男  
 □IMES を使用した屋内位置情報共有システムの開発  
 熊谷 潤・金杉 洋・清水 洋平・松原 剛・日野 智至・柴崎 亮介  
 □位置情報付き写真管理システムの開発  
 古川 修・中山 忠雅・清水 智弘・佐藤 崇・佐藤 和久・山根 隆弘  
 □位置情報に基づく質問回答共有プラットフォームの開発  
 木實 新一  
 □PhotoField: 写真と地図によるストーリー制作ソフトウェアとユーザスタディ  
 藤田 秀之・有川 正俊

## 15:50~17:30 E-4 システム開発(2)

□過疎地域における移動販売情報共有サービスの設計と実現  
 吉村 大希・有川 正俊・木實 新一・藤田 秀之  
 □要援護者支援情報把握システムの開発  
 白井 真人・福山 薫・小川 昂志・長井 一浩・山口 美帆子  
 □地域情報の交流・蓄積を目的とした Web-GIS の構築  
 山田 倩士・山本 佳世子  
 □時空間データベース処理による罹災関連諸申請ワンストップサービスシステムの開発  
 角本 繁・Adelpha Englis・畠山満則  
 □Web ベースの旅行プラン作成支援システム CT-Planner の対応地域拡大とホットスタート化  
 倉田 陽平

## 第1日目:10月13日(土) 会場 F

### 9:00~10:40 F-1 歴史・考古(1)

□城下町起源都市における道路網の変化と城下町街路の残存度—四国 8 都市を事例として  
 田中 耕市  
 □絵図判読による近世なにわの景観復元  
 石田 圭太・吉川 真・田中 一成  
 □非直角建物ポリゴンに基づく古代建物等の 3D モデルの自動生成  
 杉原 健一・沈 振江  
 □大阪上町台地北端部の地形と難波宮の立地について  
 市川 創  
 □地理情報標準に準拠した遺構情報モデルの RDB への実装  
 村尾 吉章・碓井 照子・森本 晋・清水 啓治・清野 陽一・藤本 悠・玉置 三紀夫

## 10:50~12:30 F-2 歴史・考古(2)

□A folk doll database, geographical and cultural diversity  
 Kazutaka Kawano and Haruhiro Fujita  
 □昭和期以前の関東地方の土地利用分布図の作成  
 爲末 和樹・瀬谷 創・山形 与志樹・堤 盛人  
 □旧淀川を中心とした都市変遷の把握  
 西本 貴洋・吉川 真・田中 一成  
 □葛飾北斎『富嶽三十六景』『甲州三坂水面』における写実性について

宇山 直子・高阪 宏行  
□GIS を用いた首都圏 1 都 3 県の市区町村における大正期以降の都  
市化の推移

佐藤 正志・関根 智子・高阪 宏行

#### 14:00～15:40 F-3 移動データ(1)

□Twitter からの震災時の行動経路および交通情報の自動抽出と可  
視化

石野 亜耶・小田原 周平・難波 英嗣・竹澤 寿幸  
□長期に渡る携帯ナビ移動履歴を用いたユーザの生活スタイル推定  
手法の検討

柴崎 真理子・藤田 秀之・木實 新一・有川 正俊  
□GPS ログを用いた観覧行動推定方法の改善

川瀬 純也・倉田 陽平・矢部 直人  
□GPS データを用いた商業集積地来訪者の行動パターン抽出方法の  
検討

羽田野 真由美・上山 智士・秋山 祐樹・Horanont Teerayut・  
柴崎 亮介

#### 15:50～17:30 F-4 移動データ(2)

□東京都市圏における長期の GPS データを用いた、移動経路の推定  
に関する研究

大野 夏海・関本 義秀・中村 敏和・Horanont Teerayut・柴崎 亮介  
□クラウドソーシングサイトを用いた、海外における簡易的な人の  
流れ調査の試み

杉森 純子・関本 義秀・金杉 洋・大伴 真吾  
□大規模移動データの可視化システム

上山 智士・秋山 祐樹・柴崎 亮介  
□GPS 履歴を教師とした携帯電話基地局通信履歴に基づく個人行動  
の分析

金杉 洋・関本 義秀・黒川 茂莉・渡邊 孝文・村松 茂樹・  
柴崎 亮介

### 第 2 日目:10 月 14 日(日) 会場 A

9:30～11:30 特別セッション(6)  
地域の情報基盤に対して大学関係者のできること  
アカデミック地域情報サポートーズクラブの活動を通じて  
オーガナイザー: 畑山 満則

近年の人口減少や予算縮減などの近年の課題を解決しつつ、地域  
の活力を保持するためには、各地域の情報基盤の存在は欠かすことが  
できず、その維持・活性化のためには、大学関係者に期待される要素  
は大きい。一方で、助言するためには、政策動向、技術動向、社会ニ  
ーズ等についても、普段からの大学関係者の横の連携で、一定の共通  
認識をはかることも重要な思われる。

そこで、本ワークショップでは、1 年強実施してきた「アカデミ  
ック地域情報サポートーズクラブ」その他の活動の取組紹介や、外部  
の立場から大学関係者に期待したいこと、あるべき方向性などをディ  
スカッションする。

#### 12:30-14:10 特別セッション(7)

日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と  
学校における GIS 教育

オーガナイザー: 雉井 照子

GIS の人材育成において重要なことは、児童・生徒の発達段階に応

じた学校における GIS 教育の推進である。地理空間情報を日常的に利  
用できる日本国民が育成され、大学において先進的で革新的な GIS  
技術に取り組む多数の研究者層が形成される。そのためには、学校  
教育の教育課程において必修科目的学習内容に GIS が系統的に取り  
入れられることが重要である。2007, 2008 年に改訂された新学習指導  
要領では、地図/GIS に関する教育内容が大幅に增加了。しかし、  
高校地理歴史科教育では、世界史が必修であり、2006 年秋、高校世  
界史未履修問題が発生した。これは、教育課程の矛盾を露呈したもの  
であり、日本学術会議では、5 年間にわたり、高校地理歴史科教育の  
あり方を検討し、2011 年 8 月に「新しい高校地理・歴史教育の創造  
—グローバル化に対応した時空間認識の育成—提言」を社会に公表し  
た。その中で、地理基礎・歴史基礎の必修化を提言し、「地理基礎」  
では、地図/GIS の利活用をベースにした地理教育の方向性が示され  
たのである。このセッションでは、日本学術会議の提言をはじめ、  
eDesign による現場教師への GIS 支援活動、教育 GIS フォーラムの授  
業用 GIS データリンクの活動を紹介する。

#### 14:20-16:00 特別セッション(9)

震災時の経験を基にした GIS を用いた行政支援の可能性

オーガナイザー: 畑山 満則

行政の行う災害対応業務には、GIS を利用することで業務効率化を  
可能にできるものが多く存在することが指摘されている。しかしながら、  
被災の度合いが激しく多様な災害対応業務に十分な職員が確保でき  
ない場合や平常時から積極的に GIS の導入を行っていない自治体  
が災害に直面した場合では、外部からの支援が必要となる場合もある。  
本セッションでは、阪神・淡路大震災、中越地震、中越沖地震、東日  
本大震災において災害対応の外部支援を行った経験をもとに災害時  
の行政支援の在り方について議論する。下記の 2 件の話題提供とパネ  
ルディスカッションを行う予定である。

##### 【話題提供 1】

広域災害発生に着目した、被災自治体の効果的な災害対応遂行を支  
援するための地理空間情報・GIS の活用  
浦川豪 (兵庫県立大学)

平成 2011 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、広域的かつ甚大な  
被害が発生した。複数自治体が被災し、同時並行して災害対応が進め  
られる中、地理空間情報・GIS の技術を有する専門家もこれまでの 1  
自治体に対する長期滞在型支援では対応できないことが明らかにな  
った。被災自治体を支援する専門家には、「次に何が起こるのかを予  
測できる。」、「被災自治体の状況 (情報処理面等の状況) を正しく把  
握できる。」、「適用技術を判断できる。」、「関係者と協力し、実行でき  
る環境、体制を整備できる。」等多くの能力が試されることとなる。  
福島県相馬市では、被災者の早期復興へ向けた主要な災害対応業務で  
ある家屋被害認定調査、り災証明受付・発給、そこで構築した位置情  
報付きデータベースの全庁活用を効率的に実施した。災害対応業務は  
全庁プロジェクトであることを認識し、これまでの被災地支援および  
相馬市の事例を基に、災害対応業務を効果的に遂行するために平常時  
から備えておくべき標準的な情報処理の基盤、その運用、専門家の係  
わり方について議論するものである。

##### 【話題提供 2】

災害前に GIS の利用が積極的でなかった自治体での災害対応支援  
畑山 満則 (京都大学防災研究所)

阪神・淡路大震災時に支援した神戸市長田区、東日本大震災で支援  
した那須烏山市はともに、震災以前に GIS を積極的に利用していた自  
治体ではなかった。このような自治体で GIS を用いた対応システムを  
導入するためには、導入プロセスの工夫が必要となる。本発表では下

記のような視点から支援のあり方について議論する。

- ・平常時の延長でどこまでできるのか?
- ・誰がどのように支援するのか?
- ・誰のためのシステムとして設計するか?
- ・いつまで利用するのか? システム管理は誰が行うのか?

【登壇者】

- ・畠山満則 (京都大学防災研究所)
- ・浦川豪 (兵庫県立大学)

16:20～16:40 閉会式(優秀発表賞の表彰を含む)

第2日目:10月14日(日) 会場B

9:30～11:30 B-5 教育

□高校における空間情報科学の確立に関する考察—これまでの実践を踏まえて—

山本 靖

□児童・生徒の行動調査における入力項目支援型 WebGIS の活用 - SoftGIS を用いた国際比較調査を事例に -

近江屋 一朗・真鍋 陸太郎

□スーパーサイエンスハイスクールにおける GIS を活用したフィールドワーク学習—茨城県並木中等教育学校の事例—

水谷 千亜紀・森本 健弘・齊藤 達也・亀山 哲

□地理・歴史デジタル教育における GIS の導入と実践

田村 賢哉・神尾 哲範・碓井 照子

□中国高校地理における電子教材システム化の提案

路 青・貞広 幸雄

□GeoWeb を活用したリアルタイム空間分析ツールの開発

尾野 久二・村山 祐司

12:30-14:10 特別セッション(8)

人の流れに関するデータ計測、整備、利用を横断的に考える

オーガナイザー:関本 義秀

近年、交通・防災・観光・マーケティングの分野などでは、都市空間でダイナミックに変化する人々の流れを俯瞰したいというニーズが官民間わざ見られるようになってきている。さらに携帯電話等の普及等でさらにリアルタイムでこうした流動を知ることも可能になってきており、世界的な大きなトレンドが出てきている。

しかし、こうしたデータを大規模に得ようとすると、一般的には高価で、簡単に入手することは難しい。そこで本ワークショップでは、C S I S の共同研究で提供してきた「人の流れデータセット」を通じて、出てきた様々な研究アイデアに関する紹介や、今後のグローバルトレンドの中で、どのように先進性を確保していくかについて議論を行う。

14:20-16:00 B-7 自治体 GIS

□建築物の現地調査に求められる携帯型情報端末の機能要件

石井 儀光・寺木 彰浩・阪田 知彦・

加藤 哲・森 大・丸山 智康・岩田 司

□地方自治体における GIS 導入・運用へのプロジェクトマネジメント手法適用の検討

林 典之・深田 秀実・青木 和人・今井 修

□道路維持管理の現場利用を考慮した台帳管理システムの開発

坂本 大介・窪田 諭・市川 尚・阿部 昭博

GISA-NL No.83 (2012/8/31)

□気づきマップによる持続的参加型 GIS 活動

今井 修

□東日本大震災地域における自治体 GIS の実態と震災復興計画基図を利活用した基盤地図情報の整備・更新

碓井 照子

第2日目:10月14日(日) 会場C

9:30～11:30 C-5 防災(被害予測)

□地震発生時に道路閉塞の危険性を伴う建築物の抽出手法の検討

小澤 淳眞・佐藤 俊明・島村 秀樹

□地震時における広域火災被害評価のための推定建物構造データの開発

秋山 祐樹・仙石 裕明・小川 芳樹・柴崎 亮介

□住民参加による都市災害情報の蓄積を目的としたソーシャルメディア GIS 構築

大熊 健裕・山本 佳世子

□地理空間情報を活用した自然災害事前予測—東北地方大震災を事例に—

小荒井 衛・岡谷 隆基・中埜 貴元

12:30-14:10 C-6 データベース構築(1)

□産業集積の実証研究における GIS データモデルの構築

張 启峰・澤田 貴行・蒋 淳

□ユーザビリティと普及を重視した、公共事業における図面位置管理サービスの協調的プロトタイピング

鍛治 秀紀・有川 正俊・清水 知子・秋山 實

□階層的な隣接地域結合操作に基づく点事象の時空間集積検出の提案

糟谷 志帆・井上 亮

□水圏環境 GIS を用いた重富干潟における環境特性の解析

鶴成 悅久・西 隆一郎・加茂 崇

□日本測地系メッシュデータの世界測地系への変換ツールの試作

阪田 知彦・石井 儀光・三好 達也・零石 和利・杉木 直

14:20-16:00 C-7 データベース構築(2)

□小地域時系列犯罪データベースの構築と 犯罪の時空間分析への応用可能性の検討

雨宮 護・岩倉 希

□仙台市秋保地区における G I S 建物データベースの構築と下水流量推定に関する調査研究

川村 広則・須藤 諭

□タシケント地域における GIS を活用した水マネジメントモデルの構築

森田 淳史・三谷 泰浩・池見 洋明・Pachiri Hendra

□WFS とローカルデータベースを併用した分散型空間情報データベース構築の試み

嘉山 陽一

第2日目:10月14日(日) 会場D

9:30～11:30 D-5 地域分析(1)

□都市における隙間空間の特性

中山 雅淑・田中 一成・吉川 真

□地域名称の指す空間的領域に関する研究

小島 哲哉・貞広 幸雄・浅見 泰司

- 情報サインと空間構造の関係による安心度の評価手法  
山下 和英・田中 一成・吉川 真
- 公共空間の方向性の抽出方法  
成谷 博光・田中 一成・吉川 真
- 都市の規模別分布は順位規模法則と対数正規分布モデルのどちらに適合するのか？一小地域人口統計とGISによる検証ー  
井上 孝

#### 12:30-14:10 D-6 地域分析(2)

- 鉄道ネットワークに基づく景観資源の発見  
中嶋 俊輔・吉川 真・田中 一成  
□近隣外部効果を考慮した事業所の立地集積度の計測ー八王子市を事例としてー  
森 博美・坂本 憲昭・小西 純・長谷川 普一  
□大都市交通センサスによる駅勢力圏の設定とフィットネスクラブの集客実績との関係  
井上 剛・高阪 宏行・三瓶 喜一  
□空間相互作用モデルによる食料輸送実態の把握と地産地消率の推定  
田中 弥菜美・鶴飼 孝盛・大澤 義明  
□GISを用いたBSSの検証と、DEAによる計画手法の提案  
大谷 真史・久多里 仁禮・山野 高志

#### 14:20-16:00 D-7 可視化

- 歩行時の利用を考慮した3次元ユニバーサルデザインマップの試作  
深澤 公哉・窪田 諭・市川 尚・阿部 昭博  
□Historic travel mapbase of Inoue Enryo  
Hirohisa Mori, Daisuke Mitsui and Haruhiro Fujita  
□地域間流動量の視覚的表現法に関する研究  
宗永 英起・井上 亮・清水 英範  
□時間による商業地域の形状変化と商業地域内における流動人口変化の可視化  
岡本 裕紀・秋山 祐樹・上山 智士・柴崎 亮介  
□A study on spatial recognition of illustrated town-walking maps  
Haruhiro Fujita and Tomoko Imura

#### 第2日目:10月14日(日) 会場E

##### 9:30~11:30 E-5 自然環境

- 長野県におけるニホンジカ・ツキノワグマの生息分布変化と環境条件との分析  
橋本 操  
□古地形を考慮した沖積層基底面の推定手法ー東京湾臨海部を事例として  
花島 裕樹・木村 克己  
□北海道東部河川におけるオオワシ・オジロワシ分布とシロザケ分布の関係  
松本 経・高橋 修平・中山 恵介  
□緑景観の時空間分析  
大野 陽一・吉川 真・田中 一成  
□タンザニア・キリマンジャロ山における植林活動と土地被覆変化の調査  
井上 美恵子  
□ローカルスケールにおける日射量の不均一性の検証と太陽光発電

#### 普及支援への応用

小林 知記・巖 綱林

##### 12:30-14:10 E-6 施設配置(1)

- 助産師の地域的分布からみた医療資源の地域格差に関する研究  
島山 芳織  
□人口減少・少子高齢化する中山間地域での医療アクセス圏分析ー長野県と山口県を事例にー  
目黒 大介・古谷 知之  
□新潟県上越市における公的医療機関の立地ー配分分析  
相羽 良寿  
□新潟市における子育て関連施設の適正配置に関する研究  
鎌田 健司・長谷川 普一  
□沖縄県那覇市における保育サービス需給ギャップの地図化  
若林 芳樹・久木元 美琴・由井 義通

##### 14:20-16:00 E-7 施設配置(2)

- マイクロジオデータを利用した公共図書館の最適立地評価  
青木 和人  
□東南アジアにおける輸送機関別の施設配置に関する研究  
渡部 大輔  
□ネットワーク空間分析を応用した都市計画道路の整備効果について  
熊谷 樹一郎・庄田 直弘・畠尾 一貴  
□高齢者の居住に関する、不満足度とそれを決定する要因の研究  
栗原 拓也・李 召熙・河端 瑞貴・高橋 孝明  
□小売企業の立地分布にみる首都圏の空間構造ー郊外拠点の階層性と商圏の地域経済条件に注目してー  
後藤 寛

#### 第2日目:10月14日(日) 会場F

##### 9:30~11:30 F-5 居住

- 居住者の時空間分布からみた地域間距離  
村上 彩夏・大佛 俊泰  
□首都圏における高齢世帯の居住パターンと地域の類型化  
李 召熙・栗原 拓也・河端 瑞貴・高橋 孝明  
□ヘドニック回帰分析による景観要素が住宅価格に与える影響の研究  
吉武 くらら・磯田 弦  
□首都圏におけるニューファミリーの居住地選択ー第1子出産時に注目してー  
佐藤 将  
□郊外都市における高齢者の居住満足度と定住意向についての分析ー千葉県柏市を対象としてー  
丸谷 和花・石川 徹・浅見 泰司  
□東京都区部における人口と世帯の諸特性の分布とその変化ー1995年から2010年までの4時点による分析ー  
草野 邦明・閔根 智子・高阪 宏行

##### 12:30-14:10 F-6 移動行動分析(1)

- 東京都認証保育所の園外活動における移動ルートに関する研究  
羽室 早瑛・伊藤 史子  
□自転車ナビ利用時の行動分析

- ～GPS 内蔵サイクルレコーダーを用いて～  
小銭 悠太・石川 徹・貞広 幸雄  
□自転車走行環境に着目した都市内ネットワークの把握  
天海 聰・田中 一成・吉川 真  
□公共交通乗換案内サービス利用データを用いた利用者行動解析  
見生 元気・伊藤 昌毅・川村 尚生・菅原 一孔  
□新設されたショッピングセンターにおける収益の予実乖離要因: 人の流れデータを用いて  
鈴木 英之・関本 義秀

- 14:20-16:00 F-7 移動行動分析(2)  
□スマートフォンセンサを活用したパーソナルビークルの安全性に関する研究  
薄井 智貴・山田 健太・森川 高行  
□軌跡データを用いた相対行動の視覚化に関する考察  
李 勇鶴・佐藤 俊明・岡部 篤行  
□大規模移動データを用いた商業地域における来訪者の特性分析  
秋山 祐樹・上山 智士・Horanont Teerayut・仙石 裕明・柴崎 亮介  
□GIS・GPS を用いた観光者の歩行行動分析 一小樽運河周辺エリアを事例として  
奥野 祐介・深田 秀実・橋本 雄一  
□航空旅客便の時空間ネットワーク  
鳥海 重喜

- 第1, 2日目: 10月13日(土), 16日(日) ポスター会場  
ポスターセッション  
□DEMから求めた傾斜角・方位角と林地での測定値との比較  
龍原 哲・正垣 悠太  
□CREATING HIGH-PERFORMANCE/LOW-COST AMBIENT SENSOR CLOUD SYSTEM USING OPEN-FS (OPEN FIELD SERVER) AND WEARABLE SYSTEM  
Shinji Kawakura, Ryosuke Shibusaki and Masayuki Hirafuji  
□フィールドワークにおける効率的な情報収集のための携帯情報端末アプリケーションの開発 - 端末間通信による入力作業の分業化と音声・動画ファイルへのタイムライン・タギングによる情報収集の効率化を目指して -  
湯川 治敏・蒋 淳・澤田 貴行・駒木 伸比古・佐藤 正之  
□新潟市じゅんさい池におけるGISを用いた緑地環境の変動  
本間 春菜・卯田 強  
□MODIS と GIS データを用いた水田のNDVI推定手法の検討  
岩崎 直典・小野 圭介・林 健太郎  
□Formation condition of debris-covered glaciers in the Bhutan Himalaya  
Hirot Nagai, Koji Fujita, Takayuki Niimura and Akiko Sakai  
□ALOS データを用いたブータン・ヒマラヤ氷河湖台帳の作成  
山本 美菜子・田殿 武雄・山之口 勤・富山 信弘・奈良間 千之・  
河本 佐知・卯田 強・浮田 甚郎・西村 浩一  
□アジア高山地域における山岳氷河の面積高度分布データベースについて  
縫村 崇行・坂井 亜規子・藤田 耕史・永井 裕人・谷口 圭輔・津瀧 俊・  
岡本 祥子・保科 優・小澤 亜紀  
□子どもたちと広島で平和を考える原爆痕跡地図作成ワークショップ  
岩井 哲・竹崎 嘉彦・太田 弘・川瀬 正樹・崎 将智・佐々木 緑・  
山口 泰道

GISA-NL No.83 (2012/8/31)

- GIS データと植物指標による都市の微気候の可視化  
矢島 智・松田 修三・小沢 和浩・森 博美・坂本 憲昭・宮武 直樹  
□人口停滯期における小地域レベルの将来人口推計について  
佐藤 港・磯田 弦  
□耕作放棄の分布とその変化-2010年農林業センサスを用いて-  
森本 健弘  
□横浜市における通所介護施設の配置に関する分析  
～アクセシビリティの観点から～  
小西 徹  
□エゾシカ分布拡大過程への拡散モデル適用の試み  
高田 雅之・棗 庄輔・宇野 裕之  
□企業による貸し農園の地理的分布と利用主体の特性に関する研究  
宮本 万理子・渡部 陽介・三橋 友美・  
雨宮 譲・寺田 徹・横張 真・浅見 泰司  
□首都圏郊外における集合住宅団地の地域特性と建て替えに関する研究  
谷本 雄紀  
□ArcGIS Server を援用した地理空間情報の取得方法  
—筑波大学キャンパス GIS を事例として—  
劉 珂・橋本 操・山本 敏貴・艾 博翰・  
蘇 磊・森本 健弘・村山 祐司  
□富士山観光支援のための WebGIS  
上田 智翔・巖 綱林  
□つくば市における竜巻被害に関する写真判読と地理情報解析  
小荒井 衛・岡谷 隆基・神谷 泉  
□人口減少・少子高齢化する中山間地域での医療アクセス圏分析  
—長野県と山口県を事例に—  
目黒 大介・古谷 知之  
□太陽光発電日射評価への詳細地理情報の適用と検証  
中村 元・岸本 直子  
□グーグルマップを用いた地図情報共有システムの開発  
武市 信・渡辺 公次郎・近藤 光男  
□Twitter からの震災時の行動経路および交通情報の自動抽出と可視化  
石野 亜耶・小田原 周平・難波 英嗣・竹澤 寿幸  
□点群座標データを利用した3次元の道路中心線の整備手法  
今井 龍一・井星 雄貴・佐々木 洋一・  
岩切 昭義・今西 晓久・小山 裕也  
□タッチデバイスを用いた人手による空間情報の関連付け支援  
笹尾 知世・木實 新一・藤田 秀之・有川 正俊  
□位置情報に基づく質問回答共有プラットフォームの開発  
木實 新一  
□長期に渡る携帯ナビ移動履歴を用いたユーザの生活スタイル推定手法の検討  
柴崎 真理子・藤田 秀之・木實 新一・有川 正俊  
□過疎地域における移動販売情報共有サービスの設計と実現  
吉村 大希・有川 正俊・木實 新一・藤田 秀之  
□参加型センシングによる電車混雑推定手法の提案  
大野 航・木實 新一  
□PhotoField: 写真と地図によるストーリー制作ソフトウェアとユーザスタディ  
藤田 秀之・有川 正俊  
□新旧住宅地図における建築物の築年数推定  
池田 健虎・秋山 祐樹・仙石 裕明・柴崎 亮介  
□時間経過による信頼性の変化を考慮した空席情報共有システムの

## 提案

少路 健太

□GPS 履歴を教師とした携帯電話基地局通信履歴に基づく個人行動  
の分析

金杉 洋・関本 義秀・黒川 茂莉・渡邊 孝文・村松 茂樹・柴崎 亮介  
□中国高校地理における電子教材システム化の提案

路 青・貞広 幸雄

## R で GIS ハンズオンセッション

R 言語は、オープンソースでフリーソフトウェアの統計解析  
向けプログラミング言語、及びその開発実行環境です。統計  
処理や視覚化を得意としていますが、空間データの扱いにも  
長けており、地図作成も可能です。本セッションでは R を用  
いて、どんな空間分析ができるかを紹介し、一部の分析を実  
際に各自の PC 上で操作していただきます。会場の都合上、受  
講には事前申込み (E-mail: followingmemento@hotmail.com)  
が必要です。

10月13日(土) 14:00-15:40 会場 G

講師: 星田侑久

対象者: プロプライエタリ、オープンソースを問わず、GIS  
ソフトウェアの利用経験のある研究者、実務者

参加費: 無料 (但し各自、PC を持参のこと)

## R で空間統計ハンズオンセッション

時空間的なビッグデータが官民で利活用されるようになり、  
データ解析手法としての空間統計学の有用性が改めて認識さ  
れつつあります。本セッションでは、フリーの統計言語 R を  
用いて、空間リスク分析と内挿補間の二つの手法に関する講  
義と演習を行い、理解を深めることを目的とします。会場の  
都合上、受講には事前申込み (E-mail: maunz@sfc.keio.ac.  
jp) が必要です。

10月14日(日) 12:30-14:10 会場 G

講師: 古谷知之

対象者: R を使ったことはあるが R での空間統計解析に関心  
のある方、環境リスクや空間疫学などに関心のある方

参加費: 無料 (但し各自、R 及び予め指定された R パッケージ  
をインストール済みの PC を持参のこと)

## 第8回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベルの向上を図る目的で、本年度も「大会  
優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が対象とな  
ります。

・本学会の学生会員であること (2012年7月15日までに事  
務局に入会届が到着した方を含みます。但し、2012年度まで  
の年会費完納者)

・修士号未修得であること (但し社会人学部生、社会人大学  
院生を除く)

・講演発表の発表者であること

受賞候補者は、研究(論文) 内容、発表技術の優秀者からセ  
ッション司会者が推薦し、学会賞委員会の中に設置される大  
会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者  
数は特に定めません。

尚、発表受賞者には、賞状を後日送付すると同時に、GISA  
ニュースレター84号に所属・氏名を発表します。

## ポスター賞の設置

ポスター発表への質疑応答などの活性化をはかるため、ポス  
ター発表に学会賞を設けます。

最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件を予定していますが、審査方法  
等の詳細については決まり次第、メールニュースや Web 上で  
お知らせします。

## 機器展示 (申込順)

### 【株式会社古今書院】

展示リスト: 『GIS と地理空間情報 増補版』『図解 ArcGIS 10  
Part1』ほか GIS 関連書籍

展示概要: GIS 書籍の発行点数ナンバー 1 の出版社です。本  
学会の学術誌『GIS—理論と応用』の発売元にもなっています。  
今年も ArcGIS ver. 10 に対応してリニューアルした『図解  
ArcGIS 10 Part1』(佐土原 聰編) など新刊が続々登場。GIS  
ビギナーからミドルユーザまで、利用目的に応じた数々の書  
籍を展示し、すべて 15%引で販売します。出版企画のご相談  
も大歓迎。ベテラン編集者が対応します。

### 【株式会社数理システム】

展示: NUOPT (ニューオプト)

展示概要: 最適化ソフト NUOPT (ニューオプト) のご紹介を  
致します。GIS と関連する分野としましては施設配置問題・  
配送計画問題等、答えを出すのに困難な問題に対して協力に  
サポート致します。その他統計解析ツール S-PLUS やデータ  
マイニングソフト Visual Mining Studio、テキストマイニング  
ソフト Text Mining Studio も合わせてご紹介いたします。

※ 他の出展は、事前登録者に配布するパンフレット (10月  
にwebにも公開) に掲載してあります。

## 【IT 理事会報告】

### 【IT理事会報告】

■2012年6月15日付

国際華人地理信息科学協会(CPGIS)との提携について、承認  
された。

■2012年6月15日付

CPGIS会長と直接協議する際に出た修正内容については浅  
見会長に全権を委任する旨、承認された。

■2012年7月5日付

Facebookを活用した新たな広報活動について、承認された。

## 【委員会報告】

### ■ GIS 資格認定協会

【太田 守重】

8月6日現在の資格認定状況は以下のとおりです。

GISE (上級技術者) 239名

GISEE (名誉上級技術者) 13名

教育認定 30件

多分この報告が皆様のお手元に届くときには、すでに終了  
していると思いますが、関西地区の有資格者の皆さんのご  
尽力により、8月18日に立命館大学朱雀キャンパスで、GIS上級

技術者会議 in KANSAIが開催されます。これまで有資格者会議は、東京で開催していましたが、今回初めて関西地区で開催されることになります。GIS学会副会長の矢野先生が会場をご提供ください、碓井初代表、吉川前代表、そして矢野先生によるGIS教育をテーマにした講演、及びパネルディスカッションがあります。今年度から、この資格の普及を考え、地域の皆様が有資格者の会議を開催するときは、補助金を提供することにしています。1件10万円までですが、興味のある方は、GISCA事務局にお問い合わせください。

## 【分科会報告】

### ■ FOSS4G 分科会

【嘉山 陽一】

OpenStreetMap の世界カンファレンス

State of the Map 2012 Tokyo 開催のお知らせ

OpenStreetMap(OSM)は、デジタル地理情報データを誰でも利用できるよう、フリーの地理情報データを作成することを目的としたプロジェクトです。誰でも自由に参加して、誰でも自由に編集でき、誰でも自由に利用する事が出来ます

<http://www.openstreetmap.org/>   <http://osm.jp/>

ハイチの地震や東日本大震災発生時には世界的なボランティアによって OpenStreetMap の基盤を利用して被災状況のマッピングが行われました。また多くの地図を利用したインターネットサービスで OpenStreetMap が利用され始めています。

OpenStreetMap コミュニティでは年次世界カンファレンス State of the Map を開催しています。State of the Map2012 はアジア・オセアニア地域で初めてのオープンストリートマップ国際カンファレンスとして東京で開催されます。世界中から集まるマッパーと交流を深める絶好の機会です。皆様のご参加をお待ちしています。

開催日時、場所

東京大学 駒場リサーチキャンパス : 9/6(木)-8(土) 高尾山 : 9/9(日)

・9月6日 : OSM to the Rescue - OpenStreetMap の災害対策利用

・OpenStreetMap のデータを災害策で利用した事例の紹介が中心になります。

・ターゲット層 : 企業や非営利組織、官公庁、地方自治体、GISスペシャリスト、オープンソースコンサルタント

・9月7日-8日 : テクニカルDay / コミュニティDay

・コミュニティ活動を中心としたカンファレンス。世界中から集まつたマッピングコミュニティが、各地域の活動状況を共有します。トピックは主に、様々な国での適用方法、技術、アプリケーションについての発表や、地図のカバレッジや技術的な視点での発表などです。プレゼンテーションやライトニングトークを通じて、聴衆に様々な知見や考えを伝える場が中心です。OSM がどのように世界をマッピングするかについて知る良い機会です。

・ターゲット層 : OpenStreetMap に参加するすべての人。カートグラファー、ジオグラファー、GIS 技術者、フリーソフトウェアの専門家、OSM のコミュニティや可能性について理解したい非営利組織や企業など。

・9月9日 : 高尾山マッピングパーティ

・世界中から集まつたマッパーと GPS やスマートフォンを

持って高尾山でマッピング。同時にジオキャッシングなど、楽しいイベントを企画中です。

詳細情報と参加登録は WEB サイトを参照してください  
<http://stateofthemap.org>

## 【支部報告】

### ■ 関西支部

【田中 一成】

2011年3月のNews Letter 第77号で報告して以降、関西支部の報告が滞っていました。そこで、昨春以降の行事についての報告と、今後実施を予定している行事を紹介します。

2011年11月22日(火)に建設交流館にて、第12回の『関西地域GIS自治体意見交流会』を112名の参加者を得て開催しました。これは、21日(月)から二日間にわたって開催された“G空間EXPO「関西G空間フォーラム」”と題する関西地区のGIS関係団体が一堂に会して開催したフォーラムの一環として、当学会関西支部が主催したものです。「G空間社会と自治体GIS」をテーマに、吉川眞地理情報システム学会長・関西支部長の挨拶を筆頭に、豊中市の池之上秀紀氏、大津市の西村芳夫氏、精華町の岩井秀樹氏、そして高槻市の木下克己氏から自治体GIS利用の具体的な事例紹介という、合計4名の講師による具体的でわかりやすい講演が行われました。さらに、宇治市の青木和人氏のコーディネートによるパネルディスカッションでは、G空間社会の実現に向けたGIS技術の活用について、会場を交えて積極的な意見交換が行われました。今年度は、2012年11月16日(金)に薬業年金会館で、昨年度にひき続き“G空間EXPO「関西G空間フォーラム」”の一環として開催します。

2011年12月20日(火)“G空間EXPO「関西G空間フォーラム」in 和歌山”が当学会関西支部と国土地理院近畿地方測量部などとの共催で開催されました。これは、和歌山県内の地理空間情報の整備・活用推進に関わる自治体職員や産学官の関係者を対象として、関西や和歌山県内における地理空間情報の整備・活用の取組事例等を紹介するとともに意見交換を実施し、地域における地理空間情報の活用を推進することを目的とするものです。近畿地方測量部長奥山祥司氏



第12回関西地域GIS自治体意見交流会  
(パネルディスカッション)

の開会挨拶に続き、地理情報システム学会会長吉川眞氏の特別講演が行われました。今年は“in 奈良”が計画されています。

さて、2012年8月18日（土）には、GIS資格認定協会主催の『平成24年度GIS上級技術者 in KANSAI』が、立命館大学にて開催されます。「GIS教育と人材育成」をテーマに、学会元会長の奈良大学碓井照子氏、学会前会長の大坂工業大学吉川眞氏、そして学会副会長の立命館大学矢野桂司氏による講演が行われる予定です。このNews Letterが発行された時期には既に開催後となりますが、次号以降で報告いたします。

なお、関西支部が主催しております『GIS上級技術者教育講座（GISプラッシュアップ・セミナー）』は、前回の報告後、いずれも場所は常翔学園・大阪センターにて第3回から第7回を実施しています。第3回は2011年4月16日（土）に「新しい視点から」をテーマとして近畿測量専門学校の山下恵氏、大阪工業大学大学院の天野貴文氏、株式会社インフォマティクスの久保田優子氏の3名の講師によって31名の参加を得て開催しました。2011年7月16日（土）に実施した第4回では、「空間情報の最前線」をテーマに株式会社パスコの島村秀樹氏、国際航業株式会社の土谷学氏、アジア航測株式会社の住田英二氏の3名が講師となり28名の参加を得て実施しました。続く第5回は、2011年9月24日（土）に「オープンソースGIS」をテーマとして株式会社オージス総研の松村一保氏、京都大学大学院の清野陽一氏の2名による講義を20名の参加を得て開催しました。2012年1月28日（土）に実施した第6回では、「GMLを学ぶ」をテーマとして22名の参加を得て日本アイ・ビー・エム株式会社の村尾吉章氏、株式会社オージス総研の松村一保氏の2名による講義を行いました。今年度初回の第7回は、2012年7月14日（土）に18名の参加を得て、「新フェーズのGIS利用」をテーマとして高槻市の木下克己氏と、大阪工業大学の田中一成が講義を行いました。



G空間EXPO「関西G空間フォーラム」in 和歌山  
(講演風景)

## ■ 四国支部

**[野々村 敦子]**

GIS学会四国支部では、毎年、四国GISシンポジウムを開催しています。昨年度は2012年1月10日にサンポートホール高松で行ないました。午前中に研究発表会、午後には基調講演として関西学院大学の室崎益輝先生より「東日本大震災の教訓 - 災害時の地域継続を考える」という内容で、お話を頂きました。研究発表会は、参加費無料でGIS学会の会員でない方にもオープンしています。昨年度は産・学から14件の発表があり、防災・環境分野へのGISの応用、電子書籍やスマートフォンなど簡易端末を利用したシステム開発、ネパールの地すべり対策、リモートセンシングデータの活用など、幅広い内容が紹介されました。シンポジウム後は、場所を移動して懇親会を開催し、さらに懇親を深めました。今年度は、3月1日に高知市文化プラザ「かるぽーと」において四国情報通信懇談会と共に開催する予定です。

## ■ 九州支部

**[三谷 泰浩]**

11月1日にGIS-DAY in 九州を福岡市内にて開催予定です。詳細については、決まり次第、メール等を利用してご案内する予定です。

## ■ 沖縄支部

**[有銘 政秀]**



沖縄支部会員の渡邊康志さん(GIS沖縄研究室主宰)が去る6月8日に、測量や地図などの普及と啓発に貢献したとして、国土地理院から功労者感謝状が贈られました。1989年に表彰が始まって以来、県内からは初めてです。国土地理院が提供するデータやフリーのGISソフト、Googleマップなどを用いてGIS沖縄研究室のWebサイトから積極的にGIS活用方法を発信する渡邊さんの活動が高く評価され、また今年からGIS分野も表彰の対象になったこともあって今回の受賞となり、県内GIS関係者は大いに喜びに沸きました。

ここで渡邊さんの最近の活動の中から一部を以下にご紹介します。GISフォーラム2009in沖縄では、渡邊さんが企画・指導したワークショップが「おじいと孫のGIS」と題して注目されました。これには県内の自治会で「字誌」などの製作に取り組むお年寄りが参加し、琉大の学生指導員と一緒になりGISを使って地域の変遷を調べたり、当時の写真などを地図上に挿入したりして、新たな資料作成の手法を学びました。それからGISフォーラム2011in沖縄では東日本大震災の教訓を活かそうと、防災をテーマに講演会や展示会などを開催しました。渡邊さんが担当したワークショップでは国土地理院の公開する標高データをGoogleマップなどに表示し、過去の地図と重ね合わせるなどして埋立地区の把握や避難経路の検討に役立てることを学びました。官公庁、自治体の防災担当者などが多数参加し、関心の高さが覗えました。

その後早速、この研修を活かして防災に活用する地域が現れました。沖縄市の中城湾沿岸に位置する高原区の高原自主防災組織が津波避難経路図の作成に取り掛かりました。民生員・児童員も参加して地区内の要援護者や児童施設を対象に津波の高さに応じた避難場所や距離・移動時間などを地図上



2012年7月末現在の個人会員1300名、賛助会員68社

## 賛助会員

(2口) NTTタウンページ㈱

(1口) アイエニウェア・ソリューションズ㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、ESRIジャパン㈱、㈱NTTネオメイト、愛媛県土地家屋調査士会、応用技術㈱、大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、かごしまGIS・GPS技術研究所、㈱かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、財岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合ぐびき野地理空間情報センター、近畿中部北陸GIS技術研究会、㈱こうそく、幸陽測量設計㈱、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、寿精版印刷刷㈱、GIS総合研究所いづらき、㈱GIS関西、ジェイアール西日本コンサルタント㈱、㈱JPS、㈱ジオテク関西、㈱ジャスミンソフト、㈱昭文社、㈱ジンテック、㈱数理システム、㈱ゼンリン、㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント㈱、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴㈱、東北GIS技術研究会、㈱ドーン、内外エンジニアリング㈱、長野県GIS協会、にいがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス㈱、日本情報経済社会推進協会、日本スーパー・マップ㈱、財日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士会連合会、㈱日本地図センター、パシフィックコンサルタント㈱、㈱パスコ、東日本総合計画㈱、北海道GIS技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、三井造船システム技研㈱、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、ヤフー㈱、㈱リモート・センシング技術センター、自治体会員:(1口) 大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、福岡県直方市

## 学会分科会連絡先一覧

●自治体：青木 和人（京都府宇治市）  
事務局：浅野 和仁（大阪府富田林市 Tel 0721-25-1000）  
E-mail : helicobacter\_ysfh@hera.eonetne.jp

●空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291）  
E-mail : arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp

●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051）  
E-mail : kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp

●防災GIS：畠山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333）  
E-mail : hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

●土地利用・地図GIS：碓井照子（奈良大学）  
事務局：西端憲治（㈱セイコー Tel 0721-25-2728）  
E-mail : totiriyo-sig@seicom.jp

●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001）  
E-mail : yoshikawa@due.osaka-sandai.ac.jp

●地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270）  
E-mail : morita@k.hosei.ac.jp

●セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所）  
事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所 Tel 090-5256-9118）  
E-mail : info@gissoken.org

●自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（東洋大学 Tel 0276-82-9157）  
E-mail : fujita-hi@toyonet.toyo.ac.jp

●FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan（大阪市立大学）  
連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱ TEL049-244-4032）  
E-mail : youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

## 地方支部の連絡先一覧

<北海道支部>  
支部長：北海道大学 橋本 雄一  
Tel : 011-706-4019, E-mail : you@chiri.let.hokudai.ac.jp

<東北支部>  
支部長：岩手県立大学 阿部 昭博  
Tel : 019-694-2562, E-mail : abe@iwate-pu.ac.jp

<北陸支部>  
支部長：新潟大学 牧野 秀夫  
Tel : 025-262-6749, E-mail : makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部支部>  
支部長：名古屋大学 奥貫 圭一  
Tel : 052-789-2233, E-mail : nuki@lit.nagoya-u.ac.jp

<関西支部>  
支部長：大阪工業大学 吉川 真  
連絡先：田中 一成（大阪工業大学）  
Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp

<中国支部>  
支部長：広島工業大学 岩井 哲  
Tel : 082-921-5486, E-mail : s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp

<四国支部>  
支部長：香川大学 野々村 敦子  
Tel : 087-864-2146, E-mail : nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp

<九州支部>  
支部長：九州大学 三谷 泰浩  
Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp

<沖縄支部>  
支部長：琉球大学 宮城 隼夫  
E-mail : miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp  
連絡先：有銘 政秀（㈱ ジャスミンソフト）  
Tel : 098-921-1588, E-mail : arime@jasminesoft.co.jp

### ■ 編集後記 ■

第21回の研究発表大会での各発表をニュースレターに掲載するために編集を行なながら、本研究発表大会は、地理情報システムを鍵に、理論やシステムに関するものから、防災、自治体に関するものまで、多様な分野の発表が行われることを改めて感じました。

そして、その多様な発表を産官学の多様な方々が行われることも、本研究発表大会の特徴であると思います。

本研究発表大会で多くの発表を聞き、多くの方々に出会って議論することで、今まで知らなかつた地理情報システムの新たな可能性が、また広がることを、今から楽しみにしています。

（青木和人（宇治市））

### 地理情報システム学会ニュースレター

第83号 ●発行日 2012年8月31日

### ■発行

### 一般社団法人 地理情報システム学会事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階  
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org  
URL: http://www.gisa-japan.org/

### ■ 弥生雑記 ■

エントリー方法が大幅に変わった大会発表申込および論文提出、いかがでしたでしょうか。初めてのことですのでご迷惑をおかけする点も多々ありましたでしょうが、みなさまの負担を少しでも軽減できるよう、今後も工夫を重ねる所存です。さて、大会に参加を予定されるみなさま、事前登録はお済みですか？（9月15日まで）大会前に参加証がお手許に届くので、当日は受付フリーです。大会の1週間から10日前には、CD-ROM版の論文集が手に入るというメリットもあります。プログラムや特別セッション、会場案内図の掲載されたパンフレットも同封されています。また、今年は大会参加費だけでなく、懇親会費にも、割引制度を導入しました。是非、ご検討ください。http://www.gisa-japan.org/conferences/21/registration\_office.doc なお、会場は市街から離れていています。特に生協食堂の閉まっている日曜の昼食の用意（お弁当の注文も承り中）もお忘れにならないでください。（学会事務局）